

2023 年から劇的に変わる公立高校入試



これまで当日の入試が 125 点、中学校の内申書が 130 点から大きく変更となります。

どう変わるかって？

これまで内申と入試のウエイトがほぼ半々、ちょっと内申のウエイトが重かった。そして、教師の側は、中学校時代の活動の記録、クラブ活動、生徒会活動など内申書には、中学校の教師は書いた調査書を高校へ提出していた。

ところが…です！

今度は、当日の学力検査が6、内申は 2、自己表現（面接）が 2 と大きく変化することに。

当日の学力検査が大きなウエイトを占め、さらに当日の自己表現（10 分ほどの面接）が3年間の内申とほぼ同じウエイトとなる不自然さ。ここまでやるかっ！と思うほどの変革ですね。

でも、考えてみれば当日の体調管理や今回のようなコロナやインフルの影響が当日のコンディションには大きく影響してくることになります。

そして自己表現は自分の強みや目標を表現することの、取り組みは多岐に渡る。
 それこそ「一芸」ありの、パフォーマンス。やって来たことが音楽ならそこで
 演奏もいし、パソコン持ち込みでパワーポイントで、プレゼンもいい。
 英語のスピーチもよし、いろいろなアピールの仕方があるだろうが、これをどう
 評価するのか、その基準は異なった取り組みをきちんと数値化できるのだろうか？

まあ、とりあえず最初の年が前例がないので、やってみなければわからないだろう。
 それに向けて学校も、塾の方も取り組みを考えて行かなければならない。

その子の得意なこと、それをどうアピールするか、色んなことをアドバイスも必要だろう。
 私は、個人的に、それぞれの生徒の性格や、得意な分野を考えて、プログラムを
 考えてみている、どうやれば、一人ひとりが輝けるか…

広島県公立高来春入試の基本方針

広島県教委は、公立高の入
 試制度改革の初年度となる2
 023年春の入試の基本方針
 を決めた。生徒が面接形式で
 「自己表現」をする「自己表
 現」などを採用する。現在の
 入試制度は01年春から続いて
 おり、22年ぶりの抜本改革と
 なる。今月19日午前10時から
 オンライン説明会を開く予定
 で、最初の受験生となる中学
 2年生を中心に視聴を呼び掛
 けている。

「自己表現」では、生徒は
 中学時代に興味を持って取り
 組んだことや高校で学びたい
 ことを「自己表現カード」に
 記入し、10分以内の面接で自
 らアピールする。県教委は、
 生徒が自身の強みや目標を分
 かりやすく伝える力を見る場
 と位置付けており、カードの
 記載内容そのものは評価対象

自己表現 伝える力を評価

	基本方針	現行
推薦入試	廃止	2月上旬に実施
面接	「自己表現カード」を使った 「自己表現」を全受験生に課す	一部で実施
学力検査と学習記録(内 申点)の評価比率	学力検査:内申点:自己表現 6:2:2 ※「特色枠」は配点が変わるこ ともある	学力検査:内申点 125:130
内申書のボランティア やスポーツの記録欄 実施時期	廃止	教員が記入
	2023年春から	01年春から

広島県教委の公立高入試
 制度改革の主な内容

にはしないとしている。
 調査書(内申書)は簡素化
 して学習記録(内申点)だけ

内申書 学習記録のみに

の記載とし、ボランティアや
 スポーツ、生徒会活動などの
 記録欄をなくす。各高校は、
 試験成績(5教科)▽調査書▽
 自己表現1の配点を「6対2
 対2」を基本に合否判定する。
 各高校の特色づくりをさら
 に進めるため、判定に使う試
 験成績を一部の教科に絞った
 り、配点を変えたりできる「特
 色枠」も、定員の50%以内で
 導入する。平川理恵教育長は
 「子どもたちに、自分の人生
 を選択し、表現できる力を身
 に付けさせたい」としている。

オンライン説明会はユーチ
 ユーブの県教委公式チャネ
 ルで約1時間、生配信する。
 予約不要。平川教育長が制度
 の変更点などを説明。司会の
 ラジオDJ、大窪シゲキさん
 がチャット機能で中学生から
 質問を募集し、平川教育長に
 問い掛ける。配信終了後、録
 画映像も公開する。

(松本輝、城戸良彰)